

原子力学会2015春の年会SNWセッションに参加して、

3月20日原子力学会春の年会SNWセッションに参加した。

学生・現役・シニアの3世代ということになった。

特記すべきは、現役から「事故後、ママ友会で、家族が原子力の仕事をしていることを表明できなかった」という発言があったことである。

家族は専門家というわけではないから「放射線への漠たる不安」、あるいは、風評や、子供へのいじめに対する怯懦の心、円滑なお付き合い処世術が、「家族が原子力界で働いているということを表明できなかった」ということであるかも知れない。

結果的に、アンチ原子力勢力に協力している形になっているようにも見える。

専門家は「放射線は正しく怖れる」ことはできるし、原子力界に身を置いていることも、常時明らかにしているだろう。

それとともに、関係者による「放射線相談」ということで、かなり説得力のある解説がなされてきているので、地味ではあるが放射線に対する理解も進んでいる感がある。

しかしながら、一般的には、（専門家の家族も含めて）「専門家が現状の放射線レベルは問題ない」といっても「本当だろうか？」と思っている人も未だに多いことは推察される。

まして、原子力界の現役世代が、「原子力界に身を置いていることをあからさまに言えない」としたら、＜いじめ等への怯懦の心＞が、一般人には、＜放射線への不安＞のよう
に誤解されて伝わることにも繋がってしまうのではないか？

一般人が放射線を正しく恐れるという実感をどのようにつかんでいけるか、3・11事故後の正しい理解の展開を一層期待したい。

また、現在の生活、更には次・次次・・・と続いていく世代の生活環境を、より快適に構築していくには、エネルギーを全くお天気任せにするわけにはいかないの
で、原子力は「エネルギーの大黒柱タレ」という思いでいる。